

第2章 まちづくりの方向性

第1節 将来都市像とまちづくりの目標

山形市基本構想では、『みんなで創る「山形らしさ」が輝くまち』を将来都市像に掲げています。

また、平成28年2月に策定した、2060年までの人口見通しを掲げた山形市人口ビジョンにおいて、出生率や移動率の改善などの目標を達成した場合については、2050年に人口30万人を達成できると推計しております。

山形市都市計画マスタープランは、総合計画が目指すまちづくりの実現に向けて、この将来都市像を踏襲し、2050年の人口30万人都市を見据えた、3つのまちづくりの目標を定めます。

※ 山形市都市計画マスタープランの計画期間最終年度（2035年）の推計人口：約27万3千人

○ 目標の達成に向けた考え方

人口減少・超高齢社会が到来する中、人口減少に歯止めをかけ、活力と賑わいのある持続可能なまちづくり[※]を進めていくためには、周辺都市との連携を強化しながら、南東北の中核都市としての役割を果たすとともに、仙山圏が一体となって東北地方を牽引していくことが不可欠です。

人口の拡大にあたっては、基本となる「定住」の観点に、周辺都市や仙台市からの通勤・通学による「流入」や、観光などによる「交流」の観点を加え、2050年の人口30万人都市にふさわしい都市計画の施策を展開していきます。

- ・ 定住人口は、雇用の創出や交通ネットワークを意識した都市基盤の整備、子育て環境を支援する施策の展開などによる拡大に努めます。
- ・ 流入人口[※]は、高速道路網の進展などに伴う人々の移動範囲の拡大や、都市間交流などを考慮して、山形市外からの通勤・通学する人口の拡大に努めます。
- ・ 交流人口は、都市間交流を考慮した観光拠点施設の整備や機能の強化などによる拡大に努めます。

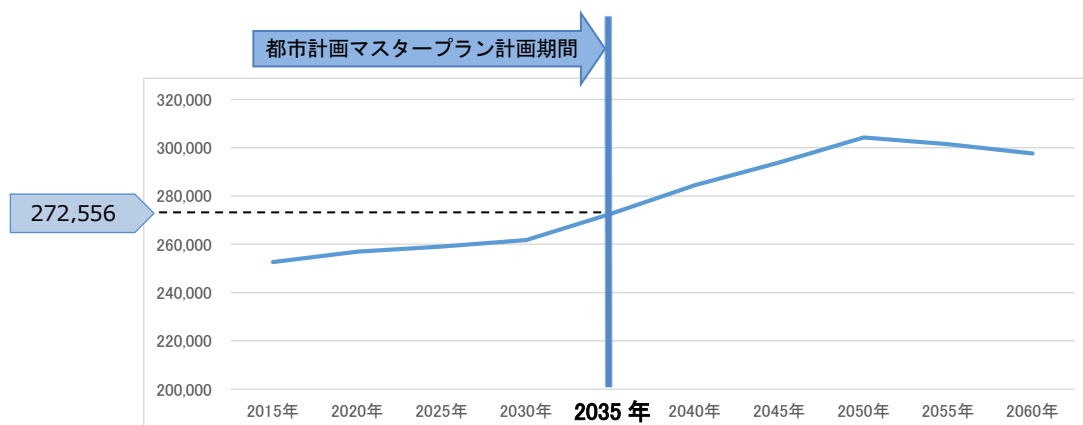


図 山形市人口ビジョンによる人口推計
(出生率や移動率の改善などの各目標を達成した場合)

将来都市像

みんなで創る「山形らしさ」が輝くまち

まちづくりの目標

活力と賑わいがある県都

人口30万人に対応したまちづくりを進めます

自然と調和したまち

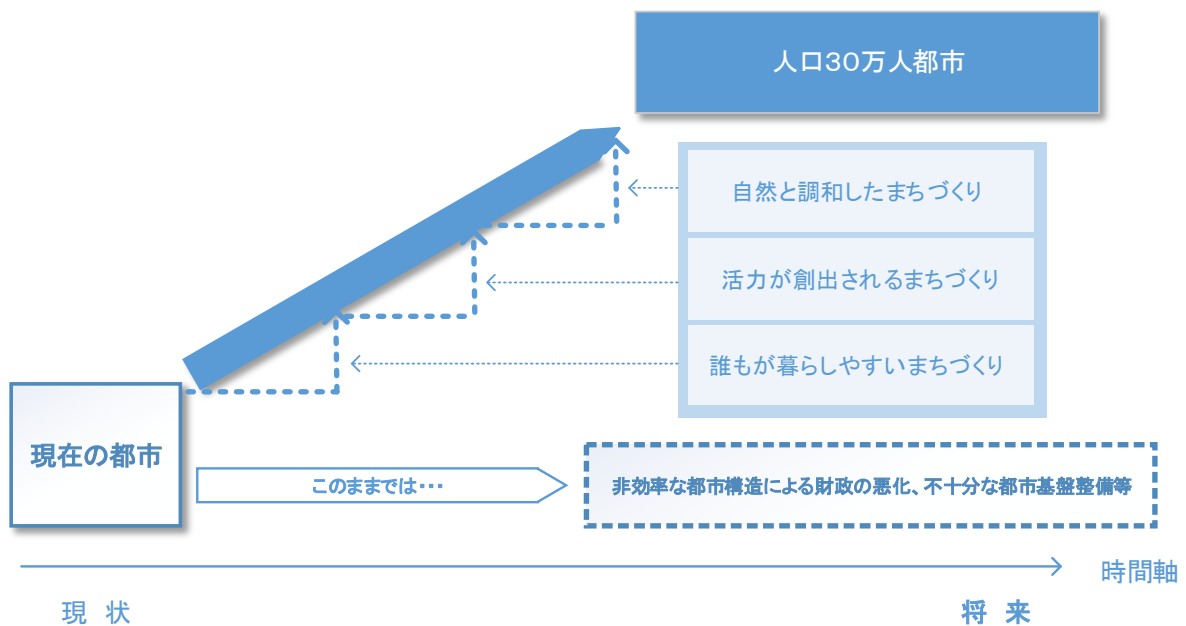
- ・豊かな自然資源である田園・森林を守り、育むことで自然と親しむことのできるまち
- ・歴史や文化などの地域資源を活かし、次世代に継承する魅力のあるまち
- ・地域住民が自ら生み出す、エネルギー地産地消のまち

活力が創出されるまち

- ・商業・工業・農業などの時代を担う若者の働く場が、安定的に確保されたまち
- ・楽しむ場や交流の場が充実した、賑わいのあるまち
- ・地域力が発揮され、人々の絆で地域同士が結ばれた共に創るまち

誰もが暮らしやすいまち

- ・誰もが健康で快適な暮らしができ、医療と福祉が充実した安全・安心のまち
- ・それぞれの地域で身近な生活サービスを受けることのできるまち
- ・地域特性に応じ、多様なライフスタイルを選択できるまち



第2節 まちづくりの視点

山形市基本構想の「将来都市像」と都市計画マスタープランの3つの「まちづくりの目標」の実現に向け、「まちづくりの課題」に対応し、地域に応じたまちづくりを展開してため、「まちづくりの視点」として、次の7つを定めます。

地域文化・風土

田園や森林などの自然資源、歴史ある寺社や山形城跡などの歴史・文化資源を保全し、次世代に引き継ぎ、魅力ある豊かな暮らしを育む、これらの地域資源を活用したまちづくり

豊かさ・賑わい

機能集積と基盤づくりによる中心市街地の賑わいを創出するまちづくりと、市街地・集落を問わず身近な地域の活性化と魅力の向上を図り、多様なライフスタイルに応じて地域が選択でき、誰もが健康で暮らしやすく、医療や福祉サービスが充実した豊かさを実感できるまちづくり

交流・連携

都市間や地域間の交流を促進し、暮らしに必要な機能を地域間などで連携・補完しあう、持続可能な交通体系の構築によるまちづくり

活力

雇用の場の確保などによる定住人口と観光拠点などの機能強化による交流人口が拡大し、地域活力が生み出される、山形の特性を活かしたまちづくり

強さ・しなやかさ

県都として都市の諸機能を集積し、活力と求心力が維持され、市民が安全・安心に暮らすことのできる、良好な市街地環境の形成と災害に強くしなやかなまちづくり

環境共生

都市の低炭素化と創エネルギー[※]への取組みを市民と行政が共に進め、市民の暮らしやすさと市全体の持続的な発展が確保される、低炭素・循環型社会[※]の構築に向けたまちづくり

共に創る

市民・NPO、事業者、行政が互いに補完関係を築き、まちづくりの情報を共有し、地域に応じた暮らしやすい居住環境の形成に向けたまちづくり

第3節 まちづくりの考え方

まちづくりの視点に基づき、将来都市像の実現に向けた、まちづくりの考え方を次に示します。

これまで、山形市都市計画マスタープランは、南北方向の主要交通軸に沿った効率的なまちづくりを方針に掲げ、人口規模に見合った持続可能なまちづくりを念頭に置き、計画的に市街地の基盤整備や都市機能の配置を進めてきました。

新たな都市計画マスタープランでは、都市機能の集積と、自然資源等の保全のバランスが適切に保たれたまちづくりを計画的に進めていきます。

今後、人口30万人都市を見据え、産業振興による雇用創出、交流などを促進するための新たな受け皿づくりと、都市機能と住み慣れた地域の日常生活サービス機能を維持・向上させていくことが必要とされており、これまで整備された施設の有効活用や施策の重点化などにより、効率的かつ効果的なまちづくりを進めていきます。

また、無秩序な市街地の拡大を避け、中心部、地域、集落それぞれの特性や状況に応じて人口密度の維持・向上をあわせて図ります。

山形市が目指すまちづくりとは、人口や機能を一極集中させる都市構造ではなく、山形市の核となる中心部と南北・東西の主要な交通軸を踏まえ、中心部とその軸周辺地域及び集落において、山形固有の自然や歴史・文化資源の保全と、今ある資源（ストック）[※]を有効に活かしながら、地域の状況に応じた機能の集積・維持を行い、足りない機能を補完し合う多極的な都市構造とし、中心部、地域、集落のそれぞれを公共交通や道路で結ぶものです。

山形市の中心部は、都市活動を牽引する核として、様々な都市機能の集積・維持を図りながら、公共交通の利便性を向上させ、あわせて、都市機能への民間投資を呼び込むことなどにより、地域の特性に合わせた土地や建物の有効活用や高度利用などを行い、効率的かつ効果的なまちづくりを進めます。

南北・東西の軸周辺の地域は、都市機能と日常生活サービス機能の集積・維持を図り、空き家や低未利用地[※]の有効活用を図りながら拠点の形成につながるまちづくりを進めます。

集落は、自然豊かな環境のもとで、良好なコミュニティ[※]の維持や暮らしに必要な日常生活サービス機能などを充足・確保するとともに、既存集落内の空き地活用などにより地域活性化を支えるまちづくりを進めます。

山形市の中心部と、軸周辺の地域、集落が、連携・ネットワーク化され、魅力を高め合い、地域特性を最大限に活かして、人口30万人都市に対応した歩いて暮らせるまちづくりを展開します。

この市全域における総合的なまちづくりにより、市民が誇りを持ち、今後も住み続けられるよう、持続可能な都市を実現し、山形らしさを次世代に引き継いでいきます。

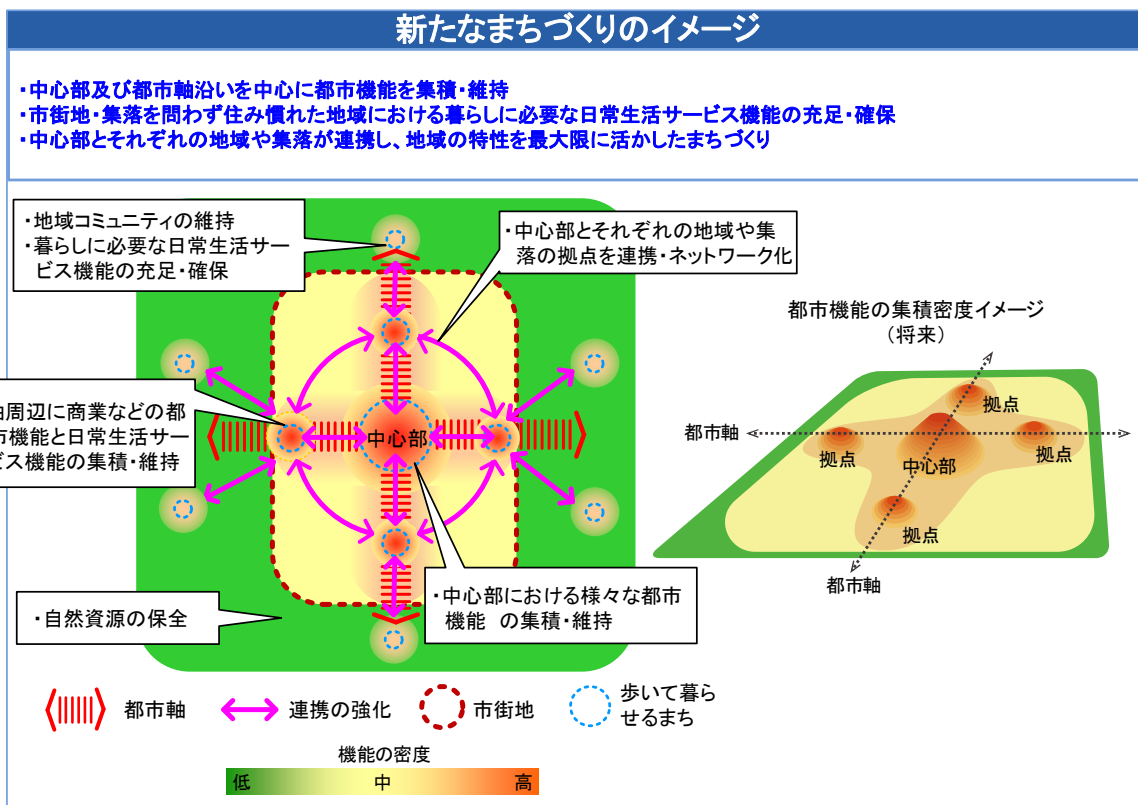
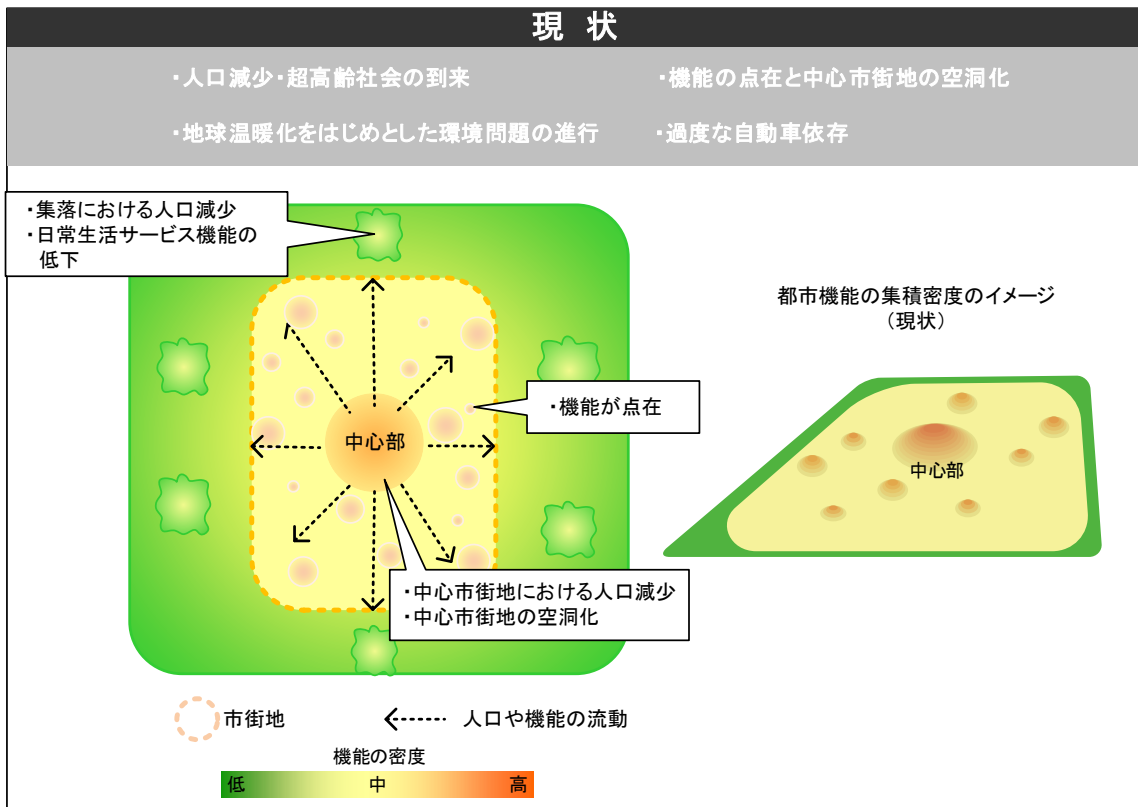


図 山形市における新たなまちづくりの概念図